



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター N a r a I D S C
（奈良県保健環境研究センター内）



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（6月月報） NEW
- 病原体（ウイルス）検出情報（6月） NEW
- 夏のこどもの感染症にご注意



（調査週）平成 24 年 第 27 週 7 月 2 日（月）～7 月 8 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	3.11	→～↓	↓	→～↓	→
2	水痘	1.14	→～↑	↑	↑	↓
3	ヘルパンギーナ	1.06	↑↑	↑↑	↑	↑
4	A 群溶連菌咽頭炎	0.86	→～↓	→～↓	→～↓	↓
5	咽頭結膜熱	0.57	→	→～↓	→	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は113例で、前週報告の119例からほぼ横ばい。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②水痘、③ヘルパンギーナ、④A群溶連菌咽頭炎、⑤突発性発しんの順。ヘルパンギーナの報告数（23例）は、ほぼ倍増。水痘の報告数（24例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（34例）は、ほぼ横ばい。突発性発しんの報告数（5例）も、ほぼ横ばい。A群溶連菌咽頭炎の報告数（13例）は、減少。郡山HC管内よりのみ、眼科定点から急性出血性結膜炎；1例、また、基幹定点からは、マイコプラズマ肺炎；2例（共に1～4歳児）の報告が、それぞれあった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、143例から137例とわずかに減少した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、A群溶連菌咽頭炎、水痘、ヘルパンギーナの順であった。感染性胃腸炎は、79例から64例と減少傾向であり、咽頭結膜熱は、15例から17例と横ばいである。水痘は13例、ヘルパンギーナは11例と、いずれも増加している。基幹定点および眼科定点からの報告はなかった。
(高木 記)

県南部地区概況 報告数(第26週→第27週)は31例→22例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(7例→11例)、②A群溶連菌咽頭炎(5例→3例)、③水痘(10例→3例)、④ヘルパンギーナ(4例→3例)、⑤突発性発疹(4例→2例)であった。
(柳生 記)



【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（6月月報）】

平成24年6月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名\報告月	6月		前月（5月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	8	0.89	6	0.67
性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.33	3	0.33
尖圭コンジローマ	1	0.11	3	0.33
淋菌感染症	3	0.33	8	0.89

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名\報告月	6月		前月（5月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	38	6.33	31	5.17
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	11	1.83	6	1.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	1	0.17	2	0.33
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

【病原体（ウイルス）検出情報（平成24年6月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、6月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成24年6月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
ロタ	A		4	1	感染性胃腸炎(5)
ノロ	GⅡ		1	3	感染性胃腸炎(4)
アデノ	2		2		扁桃炎(2)
インフルエンザ	B		2		インフルエンザ(2)

（保健環境研究センター 記）

夏のこどもの感染症に **ご注意....**

これから待望の**夏休み**——しかし、夏は夜更かしや、高温、多湿度などから食欲不振が続いて、なにかと体調を崩しがちです。そんな子供たちをねらっているウイルス性の感染症があります。その代表的な感染症について幾つかご紹介いたします。



手足口病 空気感染、経口感染

(症状) 手のひら、足の裏、ひざ、おしり、口腔内に特有の水疱様の発疹ができ、かゆみを伴います。発疹は2~3日で褐色の斑点となり、その後消えてしまいます。口腔内の水疱はやぶれると水がしみて痛みを伴います。このため口からものが食べられなくなり、脱水症になることもあります。最もかかりやすい年齢は1~5歳ですが、成人も感染します。

(潜伏期間) 3~4日 **(原因ウイルス)** コクサッキーウイルス、エンテロウイルス

(感染経路) 咽頭からの飛まつ感染か、患者便中に排泄(約1ヶ月排泄)されたウイルスの経口感染が考えられます。

ヘルパンギーナ 空気感染

(症状) 手足口病と似ていますが、突然の発熱に続く咽頭の発赤、口腔内の小水疱が特徴的です。やがて水疱は破れて潰瘍となります。発熱は2~4日程度で解熱し、その後発疹も消失します。

(潜伏期間) 2~4日 **(原因ウイルス)** コクサッキーウイルス

(感染経路) 手足口病と同じ。

伝染性紅斑 (りんご病) 空気感染

(症状) 咳、鼻汁、軽い発熱後、左右の頬がりんごの様に赤くなる発疹がでます。りんごほっぺ病とも言われています。発疹が出る7~10日前に軽いかぜ症状が出ますが、実は発疹が出る前が一番体内にウイルスが多く、感染力が強いときです。紅斑時期になるとウイルスの力をうしない、人にうつさないと言われています。ワクチンはありません。

(潜伏期間) 約1週間 **(原因ウイルス)** パルボウイルス

プール熱 (咽頭結膜熱) 飛まつ感染、空気感染

(症状) 夏かぜ疾患のひとつで、プールを介して流行することが多いのでプール熱とも呼ばれています。38~40℃の高熱が4~7日程度続きます。喉が赤く腫れ4~5日間痛みます。咳が出て、扁桃腺炎を伴うことも多くなります。目が赤く充血し、痛み、目やにが出て目を開けているのがつらくなります。このほかに頭痛、食欲不振、吐き気、下痢、鼻水などの一般的なかぜの症状がでることもあります。

(潜伏期間) 約1週間 **(原因ウイルス)** アデノウイルス

(予防) タオルの貸し借りはやめましょう。

(保健環境研究センター 記)

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm